

税の盾を

広島県立広島中学校 1年 江渕 碧衣

私の団地には一つのカーブミラーがある。これは住民たちにとって、とても大切なものだ。

急カーブがあるうえに、小さい子供がこの団地には多い。そのため、以前から危険だという声が多く挙がっていた。車に乗っている時も母が急ブレーキをかけることもあった。私も遊んでいる時に、死角から車が飛び出てきて怖い思いをした体験がある。人と車がぶつかりそうな場面も見た。

ある日、一つのカーブミラーが設置された。住民の要望が通ったからである。おかげで冷や汗をかくようなことも減ったと思う。運転手はカーブミラーを通して子供がいることが分かるのでスピードを落としてゆっくり進める。母も急ブレーキをかけることが減った。子供たちは車がゆっくり来てくれるので早くよけることができる。私も安心だ。

ふと、このカーブミラーを誰がお金を出して建てたのか気になった。そこで母に聞くと

「税よ。消費税や所得税とかあるでしょ。二回くらい却下されたけれど、審査して何とか市にお願いしたの。」

という答えが返ってきた。「税」と聞いて私はピンと来る。以前、小学校でみんなのために使われるものとして教わっていたからだ。あまり身近にあるとは思っていなかったが、今回、それは違うと実感した。確かに税は交通路の整備など、私たちのために使われている。そして、何度も審査してから使うほど、納めた税は大切にされていた。だから、自分もきちんと社会の役に立っているようで少し嬉しい。

もし、あそこにカーブミラーが設置されず事故が起きてしまったら、どうだったのだろう。命がうばわれてしまったり、人々の笑顔も幸せも無くなったりしていたかもしれない。そう考えるだけでぞっとする。けれど、税によって設置されたカーブミラーが事故を未然に防いでくれた。私たちは知らないところで税に助けてもらっている。この夏、税について考える機会をもらったことでそう気づいた。

税は盾のようだ。私たちの命を、笑顔を、幸せを、未来を守っていく盾だ。これは必ず無くてはならない。今回は誰かの盾で私たちは守られた。だから、いつか自分の盾が誰かを守れるように税を納めたいと思う。知らない人に守られ、今度は自分が誰かを守る。知らないところで互いに守り合い、支え合い、つながっていく。とても素敵なことだ。